# HLA 遺伝子（phenotype；蛋白レベル）を指標とした癌治療班

研究代表者
東京医科大学 外科学第三講座　小柳 泰久
東海大学 消化器外科　生越 喬二

## 1．研究課題

HLA 遺伝子（phenotype, 蛋白レベル）を指標とした癌治療に関する研究

## 2．研究成果

### (1) 対象と方法

(A) 対象症例

（表１）に2002年５月から登録された胃癌切除症例を示す。297例が登録されたが、そのうちの87例に HLA 抗原が測定され（HLA 採血群）、210例が対照群である。

(B) 治療法

化学療法：ステージ1B から3A までの症例：UFT、ステージ3B, 4の症例：TS1

免疫療法：ステージ1B から3A までの症例：UFT ＋ PSK、ステージ3B, 4の症例：TS1＋ PSK

HLA 採血群は、HLA Type 毎に分類し、Type 1 は化学療法または免疫療法、Type 2は免疫療法、Type 3 は化学療法、Type 4 は免疫療法を施行した。対照群に関しては、各施設の治療方針に任されているが、原則としては、今回の研究期間と同時期の上記治療法と同様な治療を行っている症例とした。

プロトコールの詳細に関しては、前号（W' Waves Vol. 9）を参考してください。

### (2) 生存曲線

今回の検討ではステージ、制癌剤の種類、制癌剤使用の有無、再発形式などの詳細な検討はできなかった。胃切除術単独群、UFT または TS1使用群、PSK 使用群、それぞれの生存曲線は（図１）に示す通りである。HLA 採血群、対照群はそれぞれ —○—、---△--- で示した。HLA 採血症例の予後が良好であった。特に HLA Type 3 で UFT または TS1症例は、現時点では全員生存している（図２）。

### (3) 将来展望

今回の検討は臨床病理学的には詳細な検討はできなかったが、今後、症例を増やし経過観察を行いたい。

表１

| 小柳新 (2002年５月13～) | | Hla 有無 | | Total |
|---|---|---|---|---|
| | | なし | あり | |
| 施設名 | 東海 | 198 | 70 | 268 |
| | 東医 | 1 | 7 | 8 |
| | 福島 | 0 | 1 | 1 |
| | 日医 | 2 | 2 | 4 |
| | 逓信 | 8 | 5 | 13 |
| | 帝京 | 0 | 1 | 1 |
| | 大分 | 0 | 1 | 1 |
| | 慈恵 | 1 | 0 | 1 |
| Total | | 210 | 87 | 297 |

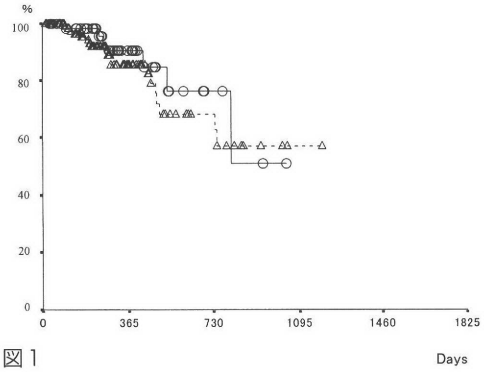


図１

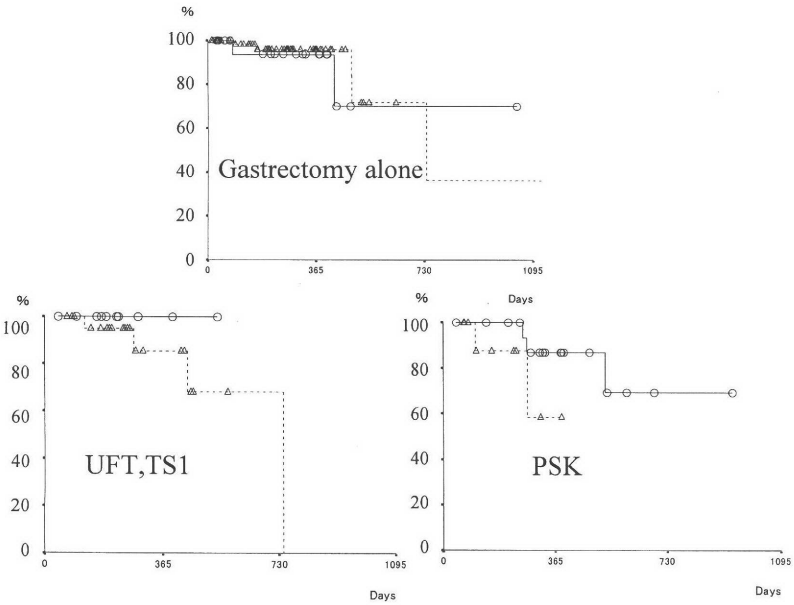


図 2

Since 1980

合成ペニシリン製剤

薬価基準収載

指定医薬品・要指示医薬品注）

ペントシリン®

注射用 1g・2g
静注用 1g・2gバッグ
筋注用

PENTCILLIN®

ピペラシリンナトリウム
（略 号 PIPC）

注）要指示医薬品：注意―医師等の処方せん・指示により使用すること

※効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

販売元［資料請求先］
大正富山医薬品株式会社
〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1

製造元
富山化学工業株式会社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-5

2003年12月作成